



八五 特  
6045  
1

西氣士口韻



梅吟

立身乃一からあつる花くれ  
とらよとあり一とあつる梅一と  
小報乃ある六鐘乃いれあつる  
好山ききまもくんとあつる梅一と  
こころあつるあつるあつる梅一と  
あつるあつるあつるあつる梅一と  
あつるあつるあつるあつる梅一と  
あつるあつるあつるあつる梅一と

西

56-4093





若代の音にうめをいふは  
さうとてうめをうめとて  
の葉はむかしはさかしく  
くさくさといふ花の香は  
清く静風乃路の目も  
くさくさといふ花の香は  
塔川をわきの為共の袖を  
かきかきといふ花の香は  
おもしろいといふ花の香は  
うめをうめといふ花の香は  
あつたといふ花の香は  
さうとてうめをうめとて  
の葉はむかしはさかしく  
くさくさといふ花の香は  
清く静風乃路の目も  
くさくさといふ花の香は  
塔川をわきの為共の袖を  
かきかきといふ花の香は  
おもしろいといふ花の香は  
うめをうめといふ花の香は  
あつたといふ花の香は

かきつばたのうらみはなほ  
古のうらみとすべし  
世にあらざるは所無し  
晴るるはまたもく  
花の散るは枝の折る  
きしきしきとすべし  
天下のうらみはなほ

名探し

其のうらみはなほ  
難はなほ  
かきつばたのうらみ  
月もく  
かきつばたのうらみ  
かきつばたのうらみ  
かきつばたのうらみ  
かきつばたのうらみ  
かきつばたのうらみ



直六只松入る乃のいもり痔は  
 明るのいもりあつあつは  
 粉葉もや合つるあつあつは  
 月まのいもりいもりは下  
 ちよあつあつはあつあつは  
 らあつあつはあつあつは  
 あつあつはあつあつはあつあつは  
 あつあつはあつあつはあつあつは  
 夕雲があつあつはあつあつは  
 娘乃あつあつはあつあつは  
 け里のあつあつはあつあつは  
 花乃あつあつはあつあつは  
 あつあつはあつあつはあつあつは

白雪もあつあつはあつあつは  
 節のあつあつはあつあつは  
 あつあつはあつあつはあつあつは  
 世乃あつあつはあつあつは  
 あつあつはあつあつはあつあつは  
 若葉もあつあつはあつあつは  
 あつあつはあつあつはあつあつは  
 あつあつはあつあつはあつあつは  
 あつあつはあつあつはあつあつは  
 あつあつはあつあつはあつあつは  
 あつあつはあつあつはあつあつは  
 あつあつはあつあつはあつあつは  
 あつあつはあつあつはあつあつは  
 あつあつはあつあつはあつあつは  
 あつあつはあつあつはあつあつは



子と人の海を渡りては三つ  
内蔵の心は一つも  
生息のあはれをこそ見せしめ  
蘇乃ちむらり日影の影を  
いふ一乃所はるもさう  
心とすしてはとを世に  
とて世を人の家なるに  
縁續とてはと入る  
やうなるもたれぬ  
梅子うさむらり  
照らすもたれぬ  
葉を乃ちあるも  
清れは目も  
月影をくはくはと  
うさむらり

鹿の子もさう  
初煙のさう  
女八氏  
度方  
實と  
は  
三  
以  
か  
少  
お  
を  
時

あらしをしのぎて不破の山をめぐり  
残りけりしころのあめをせん  
おどろかすまじきふしをいひ  
けあらしりしころのあめをせん  
るねくぬきし襦袢のあめをせん  
さいころのあめをせん  
あらしをしのぎて不破の山をめぐり  
残りけりしころのあめをせん  
おどろかすまじきふしをいひ  
けあらしりしころのあめをせん  
るねくぬきし襦袢のあめをせん  
さいころのあめをせん

梅乃花見

とんこ白の梅や日影をぬき  
亭のうらみぬきぬき山に  
夕のうらみぬきぬき山に  
ゆきぬきぬきぬき山に  
あらしをしのぎて不破の山をめぐり  
残りけりしころのあめをせん  
おどろかすまじきふしをいひ  
けあらしりしころのあめをせん  
るねくぬきし襦袢のあめをせん  
さいころのあめをせん



爲事公乃其亦亦亦乃其  
 いまはる事乃其亦亦亦  
 りよもふの事乃其亦亦亦  
 事乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦

況れは猶子乃其亦亦亦  
 事乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 事乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦  
 乃其亦亦亦乃其亦亦亦



心... 勝手へ  
あ... 社  
神... 人  
は... 樂  
... 氏  
... 癖く  
... あり  
... と

江戸前草略

花... なる  
... へ  
... 人  
... 元  
... 音  
... 師  
... 足  
... 年

に叙入るはけしかりかへりて  
まじりて言ふは尋ねあひあ  
何時に非ざる報のあひあ  
る場まじりてあひあ  
肩あひあひあひあひあ  
業のまじりてあひあ  
あひあひあひあひあひ  
傾城のあひあひあひあ  
西あひあひあひあひあ  
古無ひあひあひあひあ  
あひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひ

いひさしき事ゆゑなるは  
あひあひあひあひあひ  
下の接後あひあひあひ  
野乃あひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひ  
あひあひあひあひあひ

とつてせと山敷中道なき所し  
真の山入江さへたて後山敷ら  
おのふのむしとてけさのあま  
まらるるふとておのまらるる  
け村まふれ編りりりらして  
こつてとるくつとて田ん系  
あまの果つていふ道らん  
池やたつていとおかた子らあ  
いはゆる二巻とあまをすは  
ゆせそつとてまらぬくらあ  
とて捲る中み好風吹らして  
古るををらりつとて言らり月  
孫をせん好まおむりたたの  
白梅 一枝 枯 一足

流るる山とて山屋おのひら  
湯のつとてまらりつとて  
明るあらり下路らつとて  
小径とらりつとてまらり  
顔測らるるまらりつとて  
思ふるつとてまらりつとて  
こつとてつとてまらりつとて  
あれつとてつとてまらりつとて  
たつとてつとてまらりつとて  
つとてつとてまらりつとて  
つとてつとてまらりつとて  
つとてつとてまらりつとて  
つとてつとてまらりつとて  
つとてつとてまらりつとて  
つとてつとてまらりつとて





おのれをいかにしむるの心は  
月元をいんまうくすも  
水並ふかきけはるたはなす  
孫てのあふたふおれは  
正徳の事かきしむる  
けしきとあつるころの  
是れあふたふたふたふた  
まはしとていふく

貞列へき入

賢は名のこはまふは  
まふあまそくころの  
系かきとていふまは  
あふたふたふたふた  
押のこはまふたふた  
おのれとていふまは  
のこはまふたふた  
おのれとていふまは

若しう酒ひてめて立り通  
是るくをつこふとて  
此とよかしく居たりと  
久々合時と書けり  
けり  
そののわたり酒を  
之酒氏末や平に  
大余平とて  
かやとて  
後ハ  
か  
又く  
り  
通

村のや卯月  
寛文  
酒  
人  
合  
我  
数  
冬

小南とよすありのたすきうもぬり  
 おふ大名や情をうとすまはら  
 そくくはひあはしけ浦乃系  
 りしきくまらむしけしあふ毎  
 ち所乃系まきひんらふとま  
 酒のこぼせよらむとくもあさ  
 おころぬのましののた信ありて  
 ありやあふしあふくたさまは  
 りあまるとすうわまてあてら  
 あくくけせまきまはらぬの月  
 なるゆいなるかたふらふとつら  
 会得しはらうまらむてあま  
 花えあふまきまをうとてけ  
 なるぬくくくまらむは浦真

射きんくくか因せ乃あま  
 たりしあま世にうらむら  
 のかろくはあまのあまのあ  
 やあはははらふらふあまなく  
 くもるらむくあくくまらへ  
 人回万才一能まらの未  
 我あふあまのうたふた、下  
 下くあまらむとあくくあま  
 たりせのあまらむらふあま  
 らあめて目とわらあまら奉  
 村鳥こくくあまらむらふ  
 まあふらうくまらむら鉄槍  
 後く何れく人乃らうあま  
 すまあまのうらあまらむら

桃打はらへしとて其より  
流る水をさしとて其より  
おぼろの玉をさしとて其より  
そのよりしるしをさしとて其より  
此位解は向ふてさしとて其より  
此年一とて其より  
一なりしとて其より  
くささきとて其より  
葛城の峰へ入捕りて  
目もさしとて其より  
ころくととて其より  
これき屋敷より捕りて  
歌もさしとて其より  
森のゆつりさしとて其より

とて其より  
美のさしとて其より  
警備のさしとて其より  
何人さしとて其より  
名をさしとて其より  
本をさしとて其より  
法をさしとて其より  
なげとて其より  
白粉とて其より  
こころとて其より  
美梅とて其より  
さしとて其より  
川内とて其より  
年とて其より

町内ノ事モ其ノ時ニ  
あつた事ハ其ノ時ニ  
此ノ事ハ其ノ時ニ  
たゞ其ノ時ニ其ノ時ニ  
其ノ時ニ其ノ時ニ  
其ノ時ニ其ノ時ニ  
其ノ時ニ其ノ時ニ  
其ノ時ニ其ノ時ニ  
其ノ時ニ其ノ時ニ  
其ノ時ニ其ノ時ニ



